

川崎医大小児外科

ニュースレター No.5

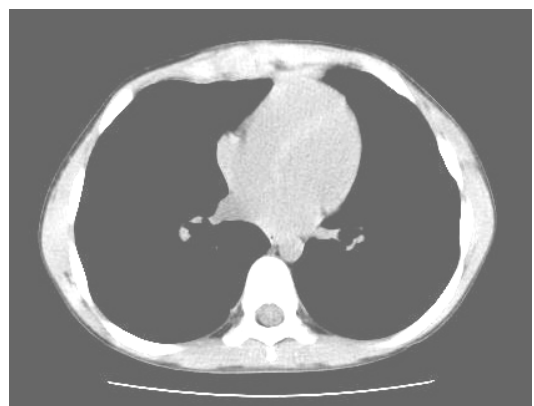
毎年、8月が終わりますとホッと一安心すると同時に夏の疲れが鉛のように重く感じられます。夏の疲れの原因は、夏休みに集中する漏斗胸手術のせいと言ってもいいでしょう。漏斗胸の子どもさんの多くは小学生、あるいは中・高校生ですから、親にしてみれば長い夏休みを利用して手術を希望する人が多いのです。また、Nuss手術は初回手術時に入れた金属バーを術後2-3年で抜去します。すなわち、2年前の夏に手術した患者さんの多くはこの夏休みに同じように手術をすることになるわけです。今年も7月8月だけで漏斗胸に対するNuss手術が33件、抜去手術が27件ありました。もちろんそのほかの手術もあるわけですから、多いときには週12件の手術をすることになります。病棟や手術室のスタッフにも大変お世話になりました。私の夏休みはこのシーズンが終わらないことには取れないのが実情です。8月が終わり、この過密スケジュールからやっと開放され、今は一息入れたいと思うこのごろです。

よく漏斗胸という疾患はそんなに多いのですか？と聞かれます。その答えは「yes and no」というところでしょうか。頻度は500人から1000人に1人というところですが、それほど多いというわけではありません。しかし、対象人口を増やせば当然患者数は増えてきます。川崎医大の小児外科を訪れる漏斗胸患者さんの多くは県外から来られます。患者数が多いのはそのためということです。

近年、それぞれの病院ではホームページを凝らして病院情報を発信しておりますが、その中に診療科毎に独自の情報を載せています。川崎医大の付属病院も例外ではなく、我ながら良くできていると考えているのですが、そこに小児外科のペー

ジがあります。是非一度ご覧ください。その中には多くの疾患の説明に混じって漏斗胸の説明文が載っています。逆に、「漏斗胸」という検索語をいれてyahooやgoogleで検索しますと、当院のホームページがかなり上の方に出てきます。漏斗胸の患者さんはこれをご覧になって当院を受診することも多いのです。それもあって、今年も関西や関東、九州から患者さんが来られました。

Nuss手術によって胸の形はかなり改善します。以下のCT写真をご覧ください。上は手術前(6歳)の状態です。下は同じ人でバーを抜いた後(8歳)のCTです。術前の胸の陥凹は術後には著明に改善し、ほとんど正常と変わらない形になっています。術前は心臓や肺の圧迫があること、そしてそれが術後には改善されることもこれで見るとよくわかると思います。



最近のもう一つの特徴は手術を希望する患者さんの年齢が徐々に高くなっていることです。大学生や社会人でも手術で治るのなら、とって小児外科の外来に来られます。本来は小児外科の対象年齢は15歳までですが、漏斗胸に限って言えばわれわれのところは成人でも手術を行います。全国的にみても成人の漏斗胸手術をする施設は少なく、私たちがしなければ他にするとところがないから、という理由によるものです。つい最近も40台の方の手術を行いました。術後はわれわれの予想以上に経過が良く、胸の形もかなり満足できるものとなりました。

話題提供：胆道拡張症（2）

今回は胆道拡張症を取り上げました。この前書ききれなかったことを追加したいと思います。

胆道拡張症は最近、胆道系発癌の原因の一つとしてクローズアップされており、外科医の常識となりつつあります。その原因は膵・胆管合流異常という先天的形態異常にあります。膵管と胆管は十二指腸壁内で合流し Vater 乳頭部で膵液、胆汁を分泌しますが、この合流の位置が十二指腸から離れたところになると、膵液が胆管の方へ流れていき、膵酵素により胆管壁に慢性の炎症を引き起こします。これが発癌の原因といわれています。この膵・胆管合流異常を放置しますと15%に胆嚢癌が発生し、5%に胆管癌が発生するといわれています。小児でも11歳の最年少例で発癌した例が報告されています。

胆道拡張症は欧米に比べ日本では発生率が高く、臨床研究も日本ではかなり進んでいます。その1例として、以前の手術で拡張した総胆管を残し、ここに腸管を吻合した例では高率に胆管炎や狭窄症状を来したり、発癌の頻度も高いという報告があります。そのため、現在では拡張した胆管はすべて切除することが外科医の常識となってきました。戸谷先生はこういった研究を世界で最も早

い時期から行ってきた小児外科医の1人として世界的に知られています。

胆道拡張症の分類として世界中の教科書に「Todani 分類」が書かれていますが、日本人の名前がこのように広く知られていることに誇りを感じると共に、すごい業績であったことを改めて認識させられます。私がまだ研修医であったころ、戸谷先生にいろいろ生意気な事を言っていたことが恥ずかしく思い出されるこの頃です。



備中国分寺のコスモス

川崎医科大学小外科の医局から人事のお知らせです。この10月から中川賀清講師が兵庫県立こども病院の泌尿器科へ出向することになりました。小児泌尿器の力をつけてまた帰ってきてくれることを期待しています。

このニュースレターをできるだけメールで配信したいので、ご希望の方は下記のアドレスへご連絡下さいますようお願い申し上げます。

uemura@med.kawasaki-m.ac.jp

また、患者さんのご紹介は緊急の場合、病院代表（086-462-1111）へお電話していただけるか、上記のアドレスへメールで紹介していただいても結構です。時間外、休日はon callが待機しておりますので、病院代表へご連絡下さい。

平成20年9月
文責 植村貞繁